春彼岸法要ご案内

まだ寒い日が続いています。皆さまいかがお過ごしですか？
今年はコロナウイルスの関係で短縮して一日昼のみでご案内申しあげます。くれぐれもご用心してお参りください。

記

●日時　三月二十九日（日）
午後一時半より

●講師
念信寺住職

後生の一大事②
死後の極楽浄土とは？
法座を開く意味

←4頁の①より続く

浄土が西にあると言うのは、私がどこから来てどこへ行くのか、何の為に生きているのかという、生きる根本の意味を教えています。今の迷いの生存から出て真実の世界に帰り、真実の世界からこの世にはたらくような世界、生き方があることを教えています。

「南無阿弥陀仏」のお名号は真実の世界からの呼びかけであり、そのことがはっきり聞こえてきたという信心こそが、大きな世界に生きる通路であると教えているのが浄土真宗の教えです。

そのために、先人は後生の一大事、人間は死んだらどうなるのかを真剣に求めてきました。

親鸞聖人のお手紙には、覚信坊という弟子さんの臨終の様子が記されています。

東から京都の親鸞聖人の元へ同行たちが行く途中、覚信坊が病気になったので、同行仲間は地元に帰れという。しかし、覚信坊はどうせ死ぬものならどこでも死ぬし、治るものなら治るので、京都の親鸞聖人の元で死にたいとお念仏申しながら亡くなったと言うのです。

覚信坊にとって死ぬことが問題なのではなく、生死の迷いを出ることが大事だったのです。迷いの生存から出て真実の世界に生まれ、再びこの世に還りなってはたらくそのような生き方仏となった今開けてくる、そのような生き方を選ぶということが大事だったのです。

死は空しく終わる無意味なものでなく、自我の生存を終え大いなる願に生きる、死てこそよりよく生きる一大事だったのです。

自我の迷いの日暮らしかない私にとって、仏法聴聞の場はそれがなければ一日を過ごすこともまならぬような大切な場所です。

今回、コロナウイルスの為に法座をすれのみとさせて頂きました。住職とたかば祖父江先生のご法話をいただきするったのですが、様々な危機を回避よる意味で、一座のみの住職の法話に精法座とさせて頂きました。

一杯の勤行・法話のお取り次ぎをさせて頂きます。ご自愛、ご用心いただいてご聴聞くださいますようご案申しあげます。

法座予定
二〇二〇年

●皆作永代経彼岸法要
六月二十九～七月一日
松月　博宣　師
（糸島市）

●秋彼岸法要
九月二十七～二十九日
瓜生　崇　師（滋賀・東近江市）

●ご正忌・報恩講
十一月二十一～二十四日
未定

お寺の催し・活動

上本庄お取越

子供報恩講お斎

鐙畑地区お取越

大晦日

1月23日犀川二十八日講於浄真寺

２月犀川同朋会

2月19日門徒会　於善徳寺

1月29日浄真寺報恩講

あとがき

今号は「未来」をテーマにして誌面をつくりました。

上高屋小学校の閉校行事準備を地元民はじめ関係者一同、入念に進めてきましたが、コロナウイルスのためにやむを得ず中止になりました。地元民にとっては閉じる為だけでなく、未来の為の行事でもありましたが。

今年の流行語大賞は、「新型コロナウイルス」で決まりだなと先月頃まで思っていました。今では不謹慎で冗談にもいえなくなってしまいました。パンデミックという耳新しい言葉も覚えました。水も空気も超綺麗なこの犀川まで、コロナウイルスは来るのでしょうか？

今年は暖冬でしたが、それでも念信寺の冬は寒く常時ダウンジャケット2枚着用、現在ようやく1枚に減ったところです。そこまで来ている温かい春が穏やかに過ごせますよう念じずにはいられません。